

レイカディア滋賀 高齢者福祉プラン

主な現状課題と目指す方向性の整理

令和5年11月6日
高齢化対策審議会
参 考 1

主な現状と課題

- 高齢者がいきいきと健康に過ごすため、また社会参加を促進するためにも健康づくり・介護予防の充実が課題。
※新型コロナウイルス感染症関係
社会活動が低調になり、フレイルの進行も指摘。
- 家族のあり方や地域社会の変容を背景に、家族を介護する人の状況が多様化。県民意識調査においては、自宅での介護や看取りを望みながら家族の負担を考慮すると実現困難とする声もあり、介護する家族への支援が課題。
- 誰もが当事者として認知症に関わる可能性がある中、認知症の人やその家族等が暮らしやすい地域づくりを進めていくことが必要。
- 認知症高齢者の増加、高齢単身世帯・高齢夫婦のみの世帯の増加や、生活困窮などを背景にした、支援ニーズの複合化・複雑化への対応が課題。また、医療・介護サービス以外にも、地域の実情に応じた生活支援を充実させることが必要。
- 介護人材確保については、喫緊の課題として様々な施策を進めているが、介護職員数は現時点で目標値を下回っており、現場においても不足感がある。生産年齢人口が減少する局面も見据え、幅広い人材の参入と介護現場の生産性の向上に取り組むことが必要。
- 感染リスクの高い高齢者を対象とする施設・サービスにおける平時からの感染症への備えが課題。
※新型コロナウイルス感染症関係
集団感染（クラスター）の多発。

方向性と対応箇所（第3章）

- 好事例の横展開、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進等により、市町における通いの場づくりやフレイル対策の取組を支援する。
→第1節（1）高齢者一人ひとりの取組の推進（栄養、身体活動、社会参加）
（2）③ 地域づくりによる介護予防
- 介護する人からの相談に対応する支援者への研修、介護と仕事を両立するための企業への働きかけや、排泄介助など介護負担の軽減につながる知識の普及等により、家族を介護する人への支援を強化する。
→第1節（2）① 介護者本人の生活の質の向上
第2節（2）認知症の人と家族等を支える地域づくり
- 認知症に関する正しい知識の普及や早期の相談・受診ができる体制づくりを一層進めることにより、認知症になっても本人や家族等が安心して暮らし続け、社会参加ができる地域づくりを目指す。
→第2節 認知症の人や家族等が自分らしく暮らす地域づくり
- 複合・複雑化する高齢者の支援ニーズに対応していくため、市町の取組を支援するとともに、専門職の派遣や研修会の実施等、地域包括支援センターの適切な機能発揮に向けた支援を通じて、支援者支援の充実を図る。
→第1節（2）① 支え合いの仕組みづくり（重層的支援体制）
第3節（2）① 地域包括支援センターの取組支援（重層的支援体制）
（3）② 権利擁護支援に係る体制整備等の推進（成年後見制度等）
- 引き続き、関係者との連携のもと、介護の仕事の魅力発信など人材確保のための取組を総合的に進めるとともに、外国人介護人材の育成支援の充実強化等により、幅広い人材の参入を進める。あわせて、業務の切り分けや介護ロボットの導入・業務のICT化による職員の負担軽減など、「介護現場の革新」のための事業者支援を実施する。
→第4節 2040年を支える介護職員等の確保・育成・定着の推進
- 介護現場における感染対策の中心的役割を担う職員を養成し、各事業所の感染症対応力を強化する。また、高齢者施設と医療機関の連携を強化し、必要な物品の備蓄等恒常的な感染症対策を進める。
→第5節（9）感染症や災害に強いサービス基盤づくり